

大学・高専機能強化支援事業
(学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援)【支援1】
事業概要

令和5年7月時点

1.基本情報

選定年度	令和5年度	学校コード	F113310102948
大学名	大妻女子大学	設置区分	私立
学校種	大学	都道府県	東京都
大学全体の総収容定員数	6,440 名	※令和5年5月1日時点	
学部学科 組織構成	家政学部（被服学科、食物学科、児童学科、ライフデザイン学科） 文学部（日本文学科、英語英文学科、コミュニケーション文化学科） 社会情報学部（社会情報学科） 人間関係学部（人間関係学科、人間福祉学科） 比較文化学部（比較文化学科）		

2.事業概要

デジタル時代に生涯を通じて学び働き続けることのできる女性を育成し、社会から要請されているSTEM分野における女子学生の増加を図るため入学定員90名、収容定員360名からなるデータサイエンス学部データサイエンス学科を令和7年度に開設する予定である。本学部ではデータサイエンスとビジネス両面を理解した人材を育てるため、統計学やITスキル等の工学分野だけでなく経営学を含む経済分野の専門性も併せ持つ文理融合人材を育成する。また、産業界の意見を踏まえた目標設定を行った上でビジネスの場におけるデータサイエンスを経験する科目や産業界などとの連携によるPBL科目など特色ある授業科目を展開する。一部の授業においては実務家教員も活用する。さらに、データサイエンス教育において先行する他大学とも連携し、ナンバリング・システムの導入等により体系的なカリキュラムを編成することで、社会生活のあらゆる場面で増え続けるデータを収集・整理・分析・活用して、ビジネスや社会の課題を発見し解決できる人材の養成を目指す。
--

3.本事業で新たに設置等を行う組織

改組予定年度	令和7年度					
認可申請・届出予定	令和5年度	※既に申請・届出している場合はその年度を記入				
改組内容	学部の新設					
設置等組織名	データサイエンス学部データサイエンス学科					
設置等組織の学位分野	工学関係	経済学関係				
当該学部等の所在地	東京都千代田区三番町1-2番地					
入学定員	90名					
収容定員	360名					
入学定員の増加数	90名					
他学部等の入学定員の減少数	90名					

※学部・学科を新設する計画である場合は、当該学部等の所在地欄は予定所在地を記入。

※入学定員には編入学定員を含む。



<基本情報>

改組予定年度：令和7年度
改組内容：学部の新設
設置等組織名：データサイエンス学部データサイエンス学科
入学定員：【R7新設】90名
所在地：東京都千代田区

<特徴・コンセプト等>

本学は実技・実学重視の教育・研究を追求してきたが、デジタル社会の読み・書き・そろばんとも言われるデータサイエンスとビジネス（経済・経営）の学びを通して、学び働き続けることができる自立した女性を育成し、また、近年急激に増加しているデジタル人材需要等の社会からの要請に応える。

受験生・高校等

大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学選抜

- 入試における数学の出題
- PBLに重要な意欲・関心の評価する面接・プレゼンを交えた入試の実施
- リメディアル教育を含む数学の学びのサポート

多様な入学者の確保

- 社会人の受け入れのための社会人入試の実施

十分な学生確保の見通し

- オープンキャンパスや女子高校生向け説明会の開催
- 併設中高との高大連携
- WebサイトやSNSを通じた志願者の掘り起こし
- 受験希望者等へのニーズ調査の実施

大学等

自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実践

- 「データサイエンス系教育組織連絡会」に加入
- 「データサイエンティスト協会」に加入
- 地域連携と学生の幅広い学びのため「千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアム」を活用
- データサイエンス学部を設置し、本学と包括協力協定を締結している京都女子大学との協力関係を拡充

人生100年時代

世界一の長寿社会を迎え、教育・雇用・退職後という伝統的な人生モデルからマルチステージのモデルへ変化。

女性就業の構造変化

一般職のニーズは減少し、就業者約5,800万人のうち非正規は約1,700万人、うち7割が女性という根深く残る男女格差。

VUCAの時代

先行き不透明な「正解」のない時代。コロナ、ウクライナ、巨大地震、異常気象、等。

Society5.0

ビッグデータ等の先端技術が高度化してあらゆる産業や社会生活に取り入れられ、社会の在り方そのものが大きく変化する超スマート社会(Society5.0)の到来。

本学データサイエンス学部での学び

産業界を含む社会のニーズを踏まえた、学修目標の具体化、体系的なカリキュラムの編成

- 産業界と意見交換を重ねてプロジェクト経験の目標を設定
- 学生が身に付けるべき国際的に通用する能力を科目ごとに明示
- 統計学、情報学、経済学、経営学それぞれの科目群について国際的に標準的なナンバリング・システムを導入
- 数理・データサイエンス・AI教育プログラム応用基礎レベルの認定を目指す

管理・教育体制や教育研究環境の整備

- 統計学・情報関係の科目と経済学・経営学関係の科目を並行して学修できるカリキュラムを構築
- ビジネスの場におけるデータサイエンスの応用を経験する科目を整備
- 実践・応用を重視する観点から、入学から卒業まで少人数のゼミ形式の授業を切れ目なく提供
- PBL教育のための教室を整備
- 女子大として学生のロールモデルとなるよう女性教員の採用を重視

実務経験のある教員等による授業科目の配置

- 演習科目・PBL科目等において実務家教員と協力する授業運営を実施
- 一部の授業科目において実務経験のある教員を活用
- 産業界・官界との連携による産官学連携科目の設置

産業界等

社会における人材ニーズ

- 社会からのデータサイエンス人材供給の要請
- STEM分野での女子学生増加の要請
- デジタル時代に生涯を通じて仕事を続けられる女性育成の必要性
- 企業等へのニーズ調査の実施

複数の企業等との設置構想に関する事前協議

- データサイエンス学部の教育内容についての産業界からの意見聴取
- 実データの提供や授業への協力についての協議
- 女性活躍を支援する企業やジェンダー・イノベーションの動向に配慮した企業を特に重視

寄附金、研究費等の外部資金の獲得

- 法人および高額寄付見込者への呼びかけなどにより寄附金増を図る
- 科研費申請数を底上げ
- 科研費および共同研究・受託研究等合わせて約10百万円の増を目指す

高大接続

連携・協力

連携・協力

伝統である実技・実学重視の教育・研究